

I 研究主題

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた複式指導の在り方
～自ら問題意識をもち、協働的に学ぶ児童の育成を通して～

II 主題設定の理由

知識基盤社会の到来やグローバル化の進展など急速に社会は変化し続けている。このような社会に対応していくために子どもたちには、ますます「知」「徳」「体」のバランスのとれた「生きる力」を育むことが求められている。新学習指導要領では、この「生きる力」を育むという理念のさらなる具体化を図るため、①生きて働く「知識・技能」の習得 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成 ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養を育成すべき資質・能力の「三つの柱」として掲げ、これらをバランスよく育成していくことを目指している。また日之影町では、「子ども達の学力を高める」「自分の考えを自信をもって正しく伝える力をつける」ための学習指導過程として「ひのかげ学びのスタイル」が作成されている。さらに、情報活用能力を培い、「生きる力」をさらに高めるためにタブレット端末が一人一台配付された。

本校の児童は、学習に熱心に取り組む児童が多く、興味関心も高い。誠実にこつこつと努力することで基礎的な学力を身に付けることができている。しかし、高学年になるにつれて、国語の読み取り問題や語彙の習得、算数B問題で、問題を読み進め題意を理解して記述する力に課題がみられる。そのため、一昨年度より各教科の学び合いの場面を中心に、ICT機器を効果的に活用することで児童がより主体的・対話的で深い学びに向かうように授業改善を行ってきた。昨年度は引き続きICT機器を効果的に取り入れながら、児童の対話力の育成にも焦点をあてて研究を進めた。児童が自分の考えをもち、互いの意見を聴き合い、考えを摺り合わせながら学びを深められるような授業を目指して、授業での対話の場の位置付けや全職員による共通実践事項への取組など、教育活動全体を通して対話力の向上に取り組んだ。その結果、児童自身の自己の対話力への関心も高まりつつある。

本年度は、全学年が国語と算数において複式授業をすることとなった。複式指導においても児童に学習内容の確実な定着と習熟を図るためには、直接指導の在り方を研究し、充実した間接指導が行われるようにしなければならない。そこで、「自ら問題意識をもち、協働的に学ぶ児童の育成」が必要になってくる。「自ら問題意識をもち」とは、児童が自分事として問いを捉え、意欲的に問題解決に取り組むことであり、そのために、課題設定の在り方を工夫していく。また、「協働的に学ぶ児童」とは、「問いを明確に捉えて、互いの考えを聴き合い、考えを摺り合わせながら確実に課題解決に向かうことができる児童」を目指している。その際、ICT機器の効果的な活用を図りながら、更に対話力を高めていくことが必須である。従って、本年度も引き続き、対話力向上の取組を継続しながら、複式指導においても主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、児童に確かな学力を確実に身に付けさせたい。

このような研究を進めていくことが、本校の教育目標「夢や希望の実現に向けて、主体的に粘り強く取り組み、確かな学力とたくましい心身を身に付けた子どもの育成」の具現化につながると考え、本主題を設定した。

Ⅲ 研究の目標

児童が問題意識をもって主体的に課題に向かい、協動的に学びながら確かな学力を身に付けられる複式指導を目指し、課題設定の在り方の工夫や確実に課題解決に向かうための対話力の育成を図る。

Ⅳ 研究の仮説

- (1) 「ひのかげ学びのスタイル」に即して、複式指導の在り方について、課題設定の在り方や間接指導における児童主体による学び方を研究していけば、児童に確かな学力を身に付けさせることができるであろう。
- (2) 授業で効果的にICTを活用し、「対話力」を高めるための手立てを講じていけば、児童の学習活動がより主体的・対話的になり、深い学びを実現することができるであろう。

Ⅴ 研究の内容

- (1) 児童が自分事として問いを捉え、意欲的に問題解決に取り組むための課題設定の在り方を工夫する。

○理論研究

- ・ガイド学習
- ・リーダー学習
- ・問い（めあて）のめたせ方（算数・国語）
- ・問いを明確に捉えさせるための手立て
- ・問いの答えとしてのまとめ方→インプットのさせ方
- ・書く時間の設定（根拠・振り返り）

○実践事例の収集

○相互参観授業

○児童の意識調査・変容調査

- (2) 児童が問いを明確に捉えて、互いの考えを聴き合い、考えを摺り合わせながら確実に課題解決に向かうことができるようにするための対話力の育成を図る。

○対話力の向上のために

- ・対話力に対する児童への意識付け
- ・複式指導の関連からの対話力の育成

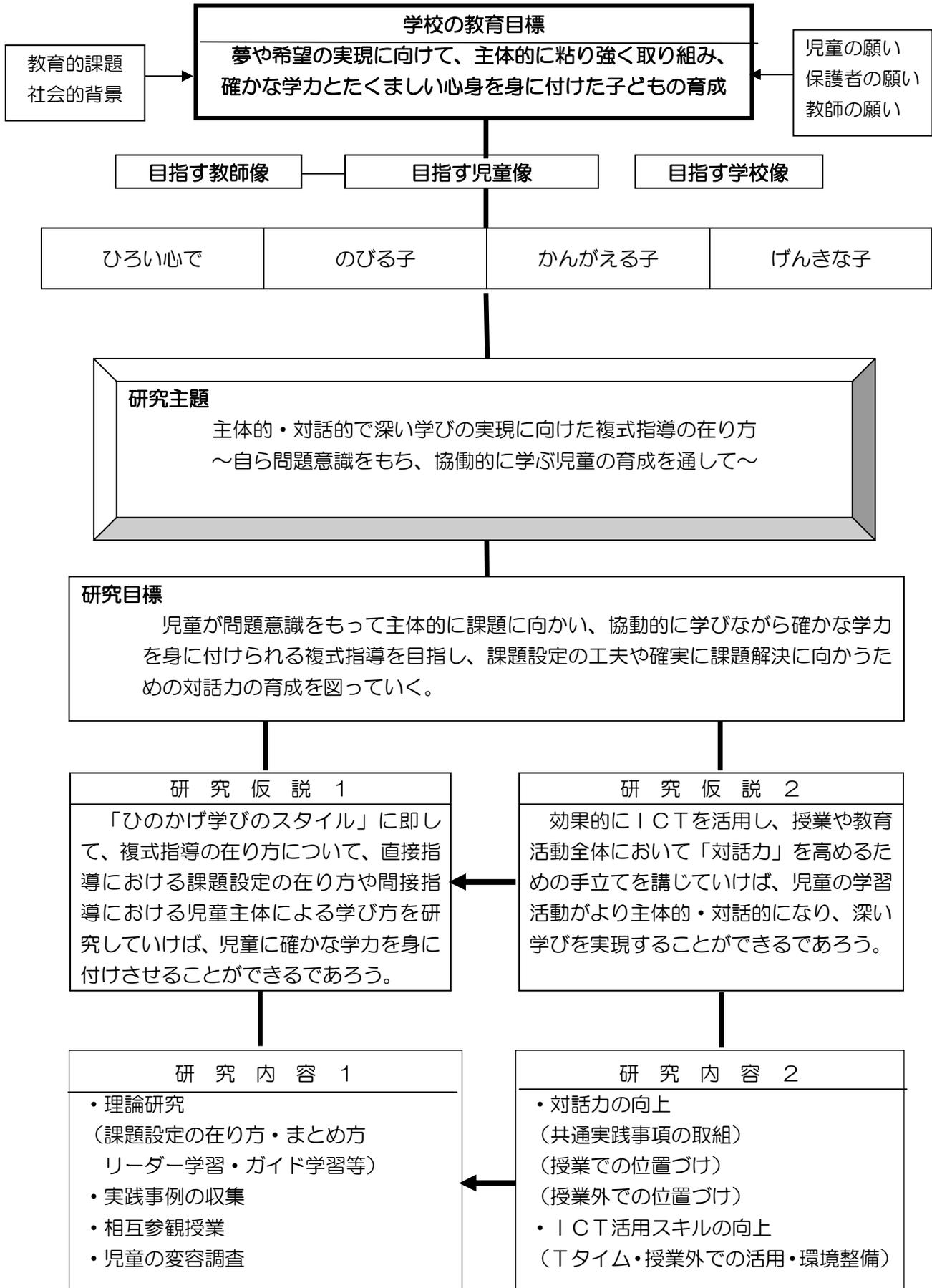
- ①何について、どのように話し合うのか。（可視化・方法の確認）
- ②話合いの形態。
- ③話合いの方向のずれや停滞をどうふせぐか。
- ④聞き手を参加させる話し方。
- ⑤各段階における「見届け」の方法。

- ・共通実践事項の取組・・・令和5年度版に見直し・周知
- ・授業外での位置づけ・・・委員会活動発表・キラリ会・山びこトーク（年3回）等の継続

○ICT活用スキルの向上のために

- （Tタイム・授業外での活用・環境整備）

VI 研究の全体構想



VII 研究計画

回	月	日	曜	研修内容	形態
1	4	18	火	今年度の主題研の方向性案 研究授業計画（案）	全体研修会
2	4	26	水	今年度の主題研の方向性確定 <u>複式授業について【全体】</u> 理論研究（対話力を高めるために）	全体研修会
3	5	10	水	主題研究の構想と共通理解 <u>複式指導の学習指導過程（間接指導）</u> 指導案形式検討	全体研修会
4	5	17	水	<u>複式指導の学習指導過程（直接指導）（間接指導）</u>	全体研修会
5	5	24	水	研究授業指導案検討 ※指導案提出	全体研修会
6	6	7	水	支援訪問準備	個人研修会
7	6	14	水	学校支援訪問① ★授業者【神田】	個別アドバイス 全体研修会、等
8・9	夏季休業中			別途計画 学校支援訪問を受けての授業改善 学力テスト結果分析・学力向上のための研修会等	全体研修会
10	9	上旬	水	相互参観授業（高平）	全体研修会
11	9	下旬	水	相互参観授業（神田）	全体研修会
12	10	上旬	水	相互参観授業（戸高）	全体研修会
13	10	18	水	授業実践を受けて、今後の構想	全体研修会
14	10	25	水	学校支援訪問②に向けて指導案作成	個人作業
15	11	1	水	学校支援訪問② 研究授業指導案検討	全体研修会
16	11	10	水	学級支援訪問② 研究授業指導案検討	全体研修会
17	11	28	火	学校支援訪問② ★授業者【高平】	全体研修会
18	11	29	水	学校支援訪問を受けての授業改善	全体研修会
19	12	25	月	研究のまとめについて 児童アンケート・職員アンケート検討	全体研修
20	1	17	水	研究用提出物作成	個人作業
21	1	31	水	次年度の研究についてアンケート記入	個人作業
22	2	14	水	県学習状況調査・日之影学力テスト分析 研究のまとめ	全体研修会
23	2	21	水	次年度の方向性確認	全体研修会

